

成果の説明書

(氏名) 若林 隆久	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 (1) 研究 ① 研究成果 【論文など】 1. 若林隆久 (2022)「精密切削加工業の中国・天津への進出と拠点の維持：株式会社荻野製作所」高崎経済大学地域科学研究所 編『地方製造業の躍進：高崎発ものづくりのグローバル展開』日本経済評論社, 第6章. 2. Egami, H., <u>Wakabayashi, T.</u>, and Yamamoto, T., "Do video games negatively affect mental health under COVID-19? Evidence from a natural experiment in Japan" The Society of Regional Policy(Takasaki City University of Economics) Discussion Paper Series 2021-01. 【口頭発表・講演など】(すべて Zoom ミーティングルームで実施) 3. 若林隆久 (2021)「育児×経営学：家庭の組織論」令和3年度 いたばしアイカレッジ男性版. (2021年10月18・25日) 4. 江上弘幸・<u>若林隆久</u>・山本剛資 (2021)「ビデオゲームはコロナ禍のメンタルヘルスにどのような影響を与えるか」2021年度秋季情報通信学会大会. (11月27日) 5. 若林隆久 (2021)「心理的安全性の概説といくつかの論点」一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会12月例会. (2021年12月21日) 6. 若林隆久 (2021)「DX時代の組織とヒトの関わり方を考える」一般社団法人経営研究所 浅井浩一元気塾12月例会. (2021年12月22日) 7. 若林隆久 (2022)「適応課題としてのDXと組織としての学習・変容」一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会3月例会. (2022年3月16日) 【その他】 8. 若林隆久 (2022)「地域や個人に対してコロナ禍による働き方の変化が持つ意味」『APPROACH』7. ② 研究費 (A) 科学研究費助成事業・若手研究の課題番号19K13804「個人間ネットワークがもたらす組織活性化の定量的・定性的研究」(2019年度～2022年度、研究代表者：若林隆久)が継続された(https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K13804/)。 (B) 令和2年度高崎経済大学研究奨励費「身体性や物体を活用した同時性・同場所性を伴う教育手法の探究」が採択された(個人)。 (C) 平成30年度地域科学研究所研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」が継続された(研究分担者、研究代表者：永田瞬)。 (D) 令和2年度地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」が継続された(研究代表者：若林隆久)。 ③ 「組織におけるキャリアとワークスタイル」研究会開催 高崎経済大学地域政策学会「学生向け学習・研究支援プログラム助成」を受け、研究教育活動の一環として「組織におけるキャリアとワークスタイル」研究会を開催した。 (2) 教育 ① 講義 前期には「経営学」と「キャリアデザイン論」、後期には「経営分析」の講義を担当した。また、「地域政策を考える」の担当回で講義を行った。 ② 演習 基礎演習および演習Ⅰ・Ⅱでは、リーダーシップ教育やアクションラーニングを導入し、ZoomやSlackも活用したゼミを実施した。また、6・7月に忍翔氏を招聘して	

5回にわたるインプロ・ワークショップを実施した。課外活動として群馬の地酒 PR 動画コンテストに2グループ参加し、そのうちの1つのグループが最優秀賞を獲得した。

(3) 社会における活動

① 一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会 コーディネータ

経営研究所の「人材開発と組織」研究会において、コーディネータを務めた。

② 日本生産性本部・経営アカデミー「組織変革とリーダーシップコース」講師

日本生産性本部・経営アカデミーの「組織変革とリーダーシップコース」において、「組織開発ワークショップ(セルフ・アウェアネス)」という講義を行った。また、グループ指導講師を務め、「組織変革の壁を乗り越えろ：変革を成功に導くCAの重要性」という論文作成の指導を行った。

③ 学内での講演会などの開催

講師を招聘し、地域科学研究所第16回講演会(2022年1月24日)「アカデミーの力を社会に：APS建学の想いと事業戦略」(講師：中川功一氏)の開催に携わった。

④ 高校における出前授業など

- 「自分なりのキャリアの展望を持とう」(5月6日、高崎経済大学附属高等学校)
- 「まちづくりとソーシャルビジネス：空き家を活用した人が集まる場所」(10月26日、群馬県立沼田女子高等学校)

2 その他の事項

- 高崎経済大学 地域科学研究所 編集委員長をはじめとした学内業務を行った。
- 群馬県創業支援連携会議の委員として、関連する会議・業務などに携わった。
- 研究・教育の一環として、「21世紀のリーダーシップ開発」(WASEDA NEO)、「対人援助職のためのライフデザイン・ポートフォリオ」および「対人援助職のための非認知能力を高めるWS」(福井県立大学公開講座)、学生主体の授業運営手法WSおよび実践編WS(芝浦工業大学教育イノベーション推進センター)、第8回碩学舎FD研究会「ケースメソッド基礎セミナー」、アクションラーニングコーチ養成講座、アサーティブジャパンオンライン講座(基礎、応用、ステップアップ)、インプロアカデミー、桐蔭オンライン講座、Zoomアカデミージャパンなどの各種講座を受講・修了した。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、来年度も継続予定の科学研究費助成事業・若手研究を中心に、これまでに実施した職場、コワーキングスペース、コミュニケーション、人材開発、組織開発に関する調査研究を継続しながら研究成果をまとめていく。また、最終年度を迎える地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」を研究代表者として遂行する。さらに、これらに関連する内容として、リーダーシップ開発や対面・オンラインの教育・研修についての調査研究および実践に取り組む。

教育面では、新型コロナウイルスの影響を鑑みつつ、対面とオンラインの併用に適した形式・内容の講義・ゼミの確立に取り組む。今年度に導入したリーダーシップ教育、インプロ(即興演劇)、アクションラーニング、コミュニケーション、振り返り、などといった取り組みを発展させ、大学内外で効果・効率・魅力の高い教育・研修の実現に取り組む。ゼミにおいては、内部での活動を充実させ質を高めるとともに、外部との交流や国内外のフィールドワークといった活動の新たな形を模索する。教育活動についても、研究活動と同様に積極的に教育内容や成果を発信していくことを目指す。